

特集

新潟大学の 日々

～旅立ちの日～



卒業・修了する学生からの メッセージ

学業、スポーツ、交友、ボランティア活動、アルバイトなどなど。
充実した学生生活を振り返って、その想いを語っていただきました。

4年間を振り返って

人文学部

行動科学課程

安藤 孝之

ANDO, Takayuki

月日が流れるのは本当に速い。正直4年間がこれほど短いとは思わなかった。さまざまな出来事があったはずなのに、今は断片的にしか思い出せないのが少し寂しい。

振り返ってみると、私にとって大学生活とは「学び」の場であった。自分で考える機会が多くある大学で、私は学ぶ楽しさを初めて知ったように思える。3年次には海外語学研修にも行くことができ、充実した学びの時間を過ごすことができた。

そして大学生活は「交友」の場でもあった。特に部活では、下らない話でも真面目な話もできる素晴らしい友人たちに出会えた。またその部活等で多くの子どもたちとも出会えた。私の大学生活が楽しいものになったのはひとえに彼らのおかげだ。本当にいい出会いをしたと思う。

この充実した4年間の記憶もいつかは色褪せてしまうだろう。でもその時でも、新潟大学で身につけた経験がどこかに生かされていけばなあと思う。私にかかわったすべての人に「ありがとう」と、い言いたい。



本人は左から2人目

教育人間
科学部

4年間を振り返って

学校教育課程

下條 浩史

SHIMOJO, Hirofumi

「きつといい先生になれますよ。」

3年次、教育実習先の生徒が言ってくれたこの言葉は、私の心に強く残っている。

数年前に、この大学のこの学部を受験したのは教師になりたかったからだ。目的意識をもった4年間は自ずと充実し、日々の講義や教育実習での現場経験から多くの学びを得た。また、こうして学んできたことに加え、学科・ゼミ、ボランティア等を通した大学生活での多くの出会いや硬式野球部に所属し、主将を務めたことも私の財産である。たくさんの刺激を受けると同時に、楽しい思い出も数えきれない程できた。素晴らしい先生方や同学年の仲間、先輩・後輩に深く感謝したい。

結果的に採用試験には合格できず、4月から講師として中学校の現場に立つ。経験を重ね、今後も諦めずに挑戦したい。4年間で充実していたからこそそう言えるのだと思う。



本人は前列中央

法学部

4年間を振り返って

法政コミュニケーション学科

大森 公博

OHMORI, Naohiro

「教わって『知る』、それを自分で使えるようになるのが『分かる』、そのように深めるうち、はじめての難しいことも自力で突破できるようになる。それが『さとり』ということ。」という大江健三郎さんの言葉があります。何かを知るためではなく、何かを分かるためのきっかけをたくさん与えられた4年間だったように思います。

大学生活という4年間の貴重な時間は、私にとって様々な出会いの場でした。4年間でいくつもの出会いどれ一つとっても、今の私はないと感じています。このような貴重な時間を過ごすことができたのは、家族や友人、先生方、多くの人の支えがあったからだと思っています。多くの支えがあって今の自分があることを忘れずにいたいと思います。

最後になりましたが、卒業にあたり今まで私を支えて下さった多くの方々に感謝致します。



一食前広場にて

経済学部

卒業にあたって

経営学科

董 影

DONG, Ying

私は編入生として新潟大学に来ました。僅2年間の勉強でしたが、私の人生の中で大変有意義な大学生活を過ごしました。最初新潟に来た頃は誰も知らずに寂しかったけれど、いろいろな授業を受けていくうちに専門知識をたくさん吸収しました。そのうえ、友達もたくさんできましたし、特に夜間の社会人と一緒に勉強することを通じてもっと深い勉強の大切さと魅力を感じました。また、大学の先生方のほかに実務家による授業を受けて、私は将来自分の進む方向を考えるきっかけとなりました。さらに国際課による留学生のための様々な行事に参加し、そのお陰で日本人と留学生同士の間で深い交流ができ、国が違ってもお互いに相手の価値観や習慣を尊敬すべきと思いました。皆様のお陰で大学生活の中からいくつもの新しい自分の可能性を発見でき、そして挑戦し、実現できたことに本当に心から感謝しています。今後は皆様から得た力と勇気をもって自分らしく生きようと新たに旅立ちます。



本人は右側

理学部

卒業するにあたっての思い

自然環境科学科

永瀬 康一

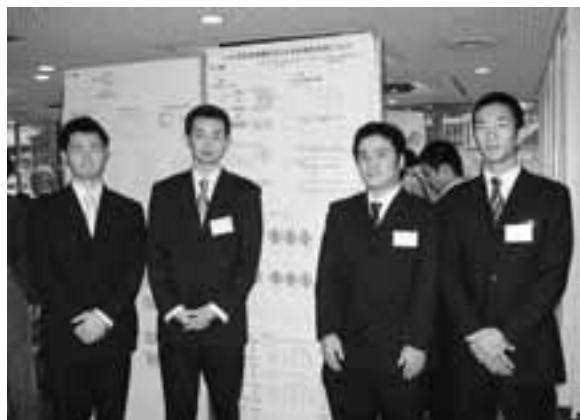
NAGASE, Kouichi

率直に言えることは大学生活がとても短かったということです。また中身が大変濃く、非常に充実した4年間でした。多くの出来事の中で印象に残っていることは卒業研究です。

増田研究室の物性論ゼミでは学問はもちろん、表現能力の大切さも学びました。毎回、先生や先輩の厳しい指摘により本当の勉学とは何かを教えてくださいました。進路は大学院なのでこの経験を今後生きていきたいと思っています。

古人の言葉に「蔵の財より身の財すぐれたり身の財より心の財第一なり」とあります。人の振舞は心で決まる。そして、その心を大切にすることで自分の可能性が大きく広がるという意味です。将来は研究者として社会貢献します。夢に向かって心が折れないように努力していきたいと思っています。

この4年間で多くの仲間と先輩、先生方と出会えたことが自分を成長させてくれました。様々な方にお世話になったことを心から御礼申し上げます。



京都大学で行われた熱測定学会にて 本人は左端

医学部

卒業の謝辞 — 百花斉放の如く —

医学科

酒井 理恵

SAKAI, Rie

卒業にあたり、一人の医学生として思うところを述べたいと思う。

私が医師を目指した理由、それは発見が遅れて重篤になった祖父の病气。何かおかしいと思ったのに、前兆を見逃した後悔にくれる家族の悲しみが自然と私に医師の道を選ばせた。大切な人の異変に次は気付けるように。

こうして入学した新潟大学は、私に「可能性」ということを教えてくれた。年齢も出身も異なる同級生には百人百様の夢と可能性がある。「物事を変えなければ自分から変わらねば」が口癖の友人とも春からは袂を分かち。医学の可能性を信じ、たゆまぬ努力と情熱が医学医療を支えていることを背中教えて下さった先生方。「良い師に出会えることを」と賤の言葉をかけて頂いた先生以上の師に出会うことは難しい。

医師となる今不安は大きいけど今日より明日の可能性を信じ旅立てる。その勇気を頂いた、出会った全ての方にお礼を申し上げたい。



Snow博士がコレラの感染経路を解明する端緒となった井戸の前にて教室の先生方と 本人は左端

医学部

看護学専攻を修了するということ

保健学科 看護学専攻

柴山 可奈子

SHIBAYAMA, Kanako

私たち看護学専攻は、卒業と同時に国家試験合格によって看護師・保健師・助産師などの資格を得ます。卒業し資格を得るということは専門職として医学や保健の最前線にでるということです。それはたくさんの生命に関わり責任がとても大きいため、不安はたくさんあります。しかしこの4年間、夢を叶えるため様々な専門知識を学び、臨地実習では多くの患者さんたちに関わってきました。途中厳しい現実もたくさんありましたが、結果として今、入学したての頃は医学の事など何も知らなかった私たちが、患者さんの身体、心、生活を専門的な目で判断し、看護の心で接することが出来るまでになりました。今までの学生生活の中で学んだ、人との絆や思いやりの心、正確な判断力は看護の基本であり、私たちの得た大きな財産だと思えます。不安は確かにありますが、その財産を生かし、1歩1歩誠実に歩みたくさんの人の体と心を支える人間になりたいと思っています。



医学祭で看護学専攻の企画としてマッサージを行った際に 本人は右端

歯学部

Birth～新しいスタートライン

歯学科

早田 晃子 リネー

HAYATA, Akiko Renee

2001年の春に入学してから早くも6年が過ぎようとしている。6年間の大学生活がどれだけ長くて短いものか、そしてどれだけ濃いものか、一言では表せない。家族であり、ライバルでもあり、仲間である友達に恵まれ、そして、たくさんの素晴らしい先生方に指導していただき、私の『学生』生活は終わろうとしている。

手探りで、全てが始まった1年生。新しい友達、新しい環境、すべてが新しかった。2年生で専門に入り、校舎も旭町にうつった。専門の授業がとても難しく感じられ、幾度と無く再試を味わった。3、4年生は色々な実習が本格的に入り、「医学・歯学」と「技」というものを意識した。また歯学祭などを通して、仲間の大切さやチームワークが成し遂げられる大きさを実感した。5年生のポリクリから6年生の臨床実習では「人対人」の責任感、一生勉強ということへの認識、そして色々な患者さんを通して、出会いの素晴らしさや、「ありがとう」の重みを感じた。

私の6年間を簡単にまとめてしまうとこのようになるが、試験期間中の苦しみや寝不足も、先生や友達との葛藤も、辛いことがあって流した涙も、全てが本当にいい思い出だと今となっては思う。37期のクラスメートと別れたくないなと思う反面、自分を含めて色々な人のポテンシャルや意欲を感じ、友達の10年後や20年後がとっても楽しみだ。帰国子女として本当にドキドキして入学してから卒業するまで、たくさんの思い出、経験、出会い、チャンスを与えてくれたこの新潟大学を私は誇りに思う。そして、晴れて卒業し、今スタートラインに立ち、それぞれの道を歩んでいく仲間達といつかまたみんなで成長した姿で語り合える日がくることを期待している。6年間本当にありがとうございました！



工学部

スキー部

福祉人間工学科

西井 文哉

NISHII, Fumiya

「3月10日、10時××分、天候一細雪。——今までやってきた努力は、全てこの日のためだ。悩み、苦しみ、疑問をぶつけ合いながら作り上げてきた団体演技が今、始まろうとしている。お互いのスキー板がぶつかりそうなほど接近し、仲間6人が「処刑台」と言う名の急斜面に立っている。気持ちは高ぶり、恐怖と緊張が入り混じりながらも団結という名の絆で繋がっている。…そして…。」

部活を4年間続けてきて本当に良かったと思う。スキーを通じて、先輩、後輩はもとより、いろいろな人との出会いがあり、成長することができた。もちろん、たくさんの人との出会いから、自分を模索し続ける4年間でもあった。今まで生きてきた22年間の中で最も充実した4年間を振り返って、今心にあるのは感謝の気持ちだ。スキーに感謝、仲間と一緒に過ごしたこの時間に感謝、そして、関わってくれた人みんなに感謝している。

「ありがとう!」



本人は前列左から2人目

農学部

新潟大学を卒業するにあたっての思い～新潟大学で学んだこと～

応用生物化学科

工藤 はなよ

KUDO, Hanayo

合格通知を手にしてから早4年が経とうとしている。合格の喜びが覚め遣らぬまま期待に胸膨らませ新潟の地を踏んだ4年前。新生活への期待と未知なものへの不安とが混同したあの時の複雑な感覚が蘇る。

振り返ると、アルバイトや就職活動、研究など大学での4年間は目まぐるしい毎日だった。忙しい日々の中で己の無力さを感じたことも沢山あった。そんな時私を支えてくれたのは私を認めてくれる仲間が存在だった。友人の温かい言葉に触れると不思議と張り詰めていた緊張が解けるのを感じた。

また、苦悩は向上しようという意欲の象徴であることも学んだ。進歩を望むから悩みが生じる。そのような発想の転換を念頭に置き、苦悩しながらも課題を乗り越える経験を重ね、自分に自信をつけることができた。3月で卒業という節目を迎え、4月から私は新潟を離れ社会人となる。私は新潟大学で学んだかけがえのないものを胸に、これからの人生を一步一步歩んでいきたい。



本人は前列右から2人目

大学院
教育学研究科

感謝の日々

教科教育専攻 国語教育専修

岩船 尚貴

IWAFUNE, Naoki

月日が経つのは早いもので、2年間の研究生生活にピリオドを打とうとしている。他大学他学部から入学した私にとってこの2年間はとても内容の濃い時間だった。

「これだけやった」というバグボーンが欲しくて大学院に進学した。知識を獲得することに怠っていた学部生時代への後悔からだった。しかし、思いとは裏腹に専門外の学問の壁は高く、慣れない研究生生活は苦難の連続だった。先が見えず不安になった時もあった。そんな私がここまでやってこれたのは、苦しい時に共に励まし合える大学院の同期と、近代文学ゼミの仲間が側にいてくれてからだと思っている。

4月からは、目標としていた中学校の教壇に立つことになる。夢を掴むことができたのは、指導教員の堀先生をはじめ国語教育専修の先生方が私に力を与えてくれたからだ。そして何よりも進学させてくれた母に心から感謝し、今後も新潟大学で培った探求心を絶やすことなく教育活動に邁進していきたい。



本人は左端

大学院
保健学研究科

これからの自分

放射線技術科学分野

下田 優

SHIMODA, Masaru

大学院に入学してもう2年が経ってしまった。あっという間に2年が終わったように思う。この2年間で自分がどれだけ成長しているのか、それとも2年前と何も変わっていないのか。様々な経験をさせてもらい、生活全体を含めると多忙な2年間を過ごしてきたと思っはいるが、この経験がこれから先の自分にどう役立っていくのかは正直わからない。きっと答えはこれからの自分の行動によって出てくるのだと思う。大学院で学んだ専門分野における知識をこの春からの職場でどう活かすか、大学院を修了した自分に職場で求められるものは何かをしっかりと考えながら、これからの自分の道を歩んで生きたいと思う。

大学入学から数えると6年間、保健学科、保健学研究科の先生方には本当にお世話になりました。心から感謝いたします。そして、時々身体を壊しながらも2年間の大学院生活を支えてくれた母へ…ありがとう。



大学4年時の研究室スタッフと 本人は2列目左から3人目

大学院
現代社会文化
研究科

遅い旅立ち

地域社会形成論専攻

石井 周

ISHII, Shu

人文学部の入学試験のために、新潟駅に降り立った日のことは今でも覚えている。あれから13年。新潟大学には、学生として都合9年間お世話になった。帰省するごとに、両親は「脛がすっかり細くなった」と歎き、悪友は「まだ学校で勉強しているなんて、よほど頭が悪いんだな」とからかった。だが、これから少しは世間に胸が張れるかなと思うと、自然に笑みがこぼれてくる。両親の支え、友人の励まし、先生方のご指導のお蔭で、私はようやく羽ばたけるようになった。

思えば、修士課程修了後、台湾の旅行会社に就職し、新潟にも学問にも訣別したつもりだった。だが新潟に戻った。「台湾とは何か」と考えるようになり、博士課程に入った。台湾文学についての博士論文を提出した今でも、その疑問符は政治や歴史と絡みつき、私の心に纏わりついて離れない。目の前に広がる大空へ、これから私は答えを求めて飛び立つ。たとえ雷に打たれても、決して羽は休めない。



研究室にて

大学院
自然科学
研究科

修了にあたって。

環境共生科学専攻

吉井 エリ

YOSHII, Eri

これを書いている今、私は、修了に向けて論文書きに励んでいます。学部、修士、博士課程と、およそ10年間、新潟大学にお世話になりました。振り返ると、人に恵まれた学生生活でした。先生、先輩、友人、アパートの大家さん、隣家の方々、バイト先で…、お世話になりました皆様に感謝しています。

「どうするべきか」に縛られがちな私は、「自分がどうしたいのか」を認識していないために、自分自身とのバランスを保てず、生きていくこと、また、人間関係においても迷うことが多かったです。幸いにも、大学の保健管理センターで専門の先生に相談することで、迷いの原因となる「自分」を知ることができました。

私自身の経験より、おかしいな、うまいかないな、というときには、保健管理センターを訪ねることをお勧めします。専門の職員さんが温かく迎えてくださいます。

生きることは楽ではありませんが、楽しみがあり、生きる価値があると今は実感しています。



野外調査の際に 本人は左側

大学院
医歯学
総合研究科

卒業にあたって

腎研究施設構造病理学分野

張 瑩

ZHANG, Ying

留学生活は“光陰矢のごとし”と言うように、あっという間の4年間だった。晴れた日に私は日本海へ行き、きれいな海・青い空・爽やかな潮風に吹かれ、4年間の留学生活を目を閉じて思い出す…。

4年間の研究生生活で最も印象的なことは、まわりの先生達の研究に対する厳格な態度と優しい心であった。先生と先輩達はいつも夜遅くまで研究を続け、その研究姿勢は私の心を尊敬の気持ちでいっぱいにし、同時に私に頑張る勇気をくれた。研究や生活に困った時、先生や先輩の応援に助けられた。4年間の記憶の中、成功した喜びがあれば失敗した戸惑いもある。すべてが私の経験であり、これからの人生の輝く財産となるだろう。今、もうすぐ去っていく校舎に立つと、別れと感謝の気持ちでいっぱいになります、お世話になった先生と先輩達、本当にありがとうございました。

中国人留学生として、中日両国民間の友情とこれから共に両国の発展、進歩を心からお祈りします。



本人は左端